

気候変動における日米豪印協力 「日米豪印 気候変動適応・緩和パッケージ (Q-CHAMP)」概要

1. コンセプト

2022年5月24日に東京で開催された日米豪印首脳会合に際して、日米豪印各国は、我々が現在進めている協力及び前回の首脳会合以降の進展を基礎として、気候変動への対応における実践的な協力を更に進め、パリ協定を着実に実施し、COP26の成果を実現する決意を確認した。

日米豪印各国は、インド太平洋地域のパートナーに対し、ネットゼロ経済・社会への現実的な移行と気候変動の影響に対する強靭性の強化に向けたニーズの高まりを考慮して、支援を提供するために継続的に取り組んでいく。こうしたニーズに応えるため、日米豪印各国は、日米豪印気候作業部会の3つの柱である気候野心、クリーンエネルギー、適応／強靭性の下で進められてきた「緩和」と「適応／強靭性」をテーマとする「日米豪印 気候変動適応・緩和パッケージ (Q-CHAMP)」を立ち上げる。Q-CHAMPは、2021年9月と2022年5月にそれぞれ開催された日米豪印首脳会合で協力が確認された分野における我々の共同の取組を主眼とする。我々の協力を一層具体的で、実践的で、体系的なものとするため、日米豪印各国は、我々4か国間及びインド太平洋地域における気候変動対策を支援するに当たり、関連する我々のプログラム、イニシアティブ、及び対応策を拡大し、そこでの我々の経験を十分に活用することにコミットする。また、Q-CHAMPは、我々4か国及びインド太平洋地域における具体的かつ実践的な気候変動対策を実現するために、我々4か国が実施している個々の取組をまとめたものでもある。

2. 内容

Q-CHAMPは、以下の協力分野を対象とする。

<緩和>

- 日米豪印各国の意見を踏まえてグリーン回廊に関する共通の枠組みを目指す、「日米豪印海運タスクフォース」を通じた海運・港湾部門の脱炭素化に向けた取組。
- クリーン水素とクリーンアンモニア、天然ガス部門におけるメタン削減、及び二酸化炭素回収・有効利用・貯留(CCUS)／カーボンリサイクルに関する知見共有を通じた、クリーンエネルギーへの移行の強化及び加速化。
- インド太平洋地域におけるクリーンエネルギーのサプライチェーンを強化する計画の策定可能性の検討や、2022年7月のシドニー・エネルギー・フォーラムへの支援などを通じた、責任ある強靭なクリーンエネルギーのサプライチェーンの支援。
- 十全性の高い炭素市場への参加を可能にするとともに、地域の能力構築を支援するための「日米豪印パリ協定第6条実施ミッション」の立ち上げ。

- 地方自治体の気候行動に関する知見共有の強化、及び代替フロン（HFCs）のライフサイクルマネージメントに関するワークショップの開催。

<適応／強靱性>

- 気候・情報サービス・タスクフォースによる気候情報サービスの推進及び、「災害に強靱なインフラのためのコアリション（CDRI）」を通じた取組など、災害と気候変動に強靱なインフラを含む防災の推進。
- 緩和及び強靱性の強化への相乗便益が期待される、研究開発（R&D）及びイノベーションを拡大するための、「気候のための農業イノベーション・ミッション（AIM for Climate）」などを通じた気候に優しい農業の促進。
- 国際サンゴ礁イニシアティブを通じた取組を含む、海洋生態系に焦点を当てた、生態系を活用した適応策と自然に基づく解決策に基づく強靱性の強化。